

大奥の老女の性格

一政治的な活動を中心として一

具 知 會

要 旨

大奥と女中に関する本格的な研究が始まったのは1980年代の後半からである。研究が再び度々照明されたのは2000年に至ってからで、受動的に認識されていた近世の女性を見直すこととしての研究が行われるようになった。ただし、大奥と女中の研究にはその量に比べて詳細な研究はそれほど見受けられない。本稿では大奥を管理する総監督者であった老女の活動と影響力に焦点を合わせ、事務管理の専門職を担当していた老女の性格について分析と考察を行いたい。

老女は旗本の娘で自由の意思として幕府所属の官吏になった人である。老女の政治的な活動における代表的な人物としては大崎と姉小路が挙げられる。大崎は家斉付の老女で、当時の田沼派と反田沼派との政権争いの中で大活躍した。その外にも幕府官吏の人事権を持っていて、それに関連した依頼も多かったことからよほどの実力者だったことが分かる。姉小路は天保改革で儉約令を下す老中水野忠邦に反論し、大奥の奢侈を正当化したことでよく知られている。また、將軍家と大名家の結縁にも参与し、次期將軍になる徳川家定の正室の選り抜きにも関与した人である。

以上のように、將軍と格別な関係を持つ大奥の特性とその大奥におけるすべての事務を管理する老女の影響力は政務を管轄する表の役人たちにも見過ごすことができないほどだったのである。